

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第34回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

次世代歯科治療としての歯の再生を目指して

辻 孝

東京理科大学・

文部科学省学術フロンティア再生工学研究センター

平成20年4月25日(金)17:00～

歯学部A1セミナー室(歯学部基礎棟1階)

最近、私たちは、「歯の再生」に向けた技術開発の第一段階として、単一化細胞から細胞操作により器官原基を再構築するための「器官原基法」を開発した。この方法は、単一化した上皮細胞と間葉細胞をコラーゲンゲル内で高密度に区画化して立体的に配置することが特徴であり、正常な構造を有した再生歯を高頻度で発生させることを可能にした。さらにこの再構成歯胚を成体マウス抜歯窩へ移植すると、神経を有した正常な再生歯が初期発生することから、人工的な歯胚移植による歯科再生医療は実現可能性を有すると考えられる。

さらに私たちは、器官原基法を利用して細胞シーズの探索や歯の発生メカニズムに関わる分子の機能解析など、歯科再生医療の実現を推進するための研究を進めている。本講演では、器官原基法を中心とした私たちの研究成果を紹介すると共に、歯科再生医療の可能性について考察したい。



連絡先: 第34回モデレーター 山本 照子 (内線 8372)